



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

## 国際センター通信 (No. 91)

### 北海道大学 出前講座

土木学会国際センターでは、2019年から、日本の将来を担う若者たちに海外プロジェクトの意義や海外での仕事の進め方を伝えるため、大学等における講義の一コマを使わせていただき、出前講座を提供している。「世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ シンポジウム」など、好評をいただいた講演の内容を紹介したあと、講師との質疑応答を通じて、海外のプロジェクトマネジメントについての理解を深めてもらう機会を提供するものである。

開始して2年目を迎える今年は、2020年2月5日に、北海道大学工学部にて「国際プロジェクト論」のマイケル・ヘンリー先生による講義の一コマをいただき、大迫一也氏(清水建設(株)土木総本部土木企画室長)を講師に迎え、出前講座を実施した。

「シビルエンジニアとして海外で働く挑戦と大いなる喜び」と題した英語の講義では、価値観や行動の変化に影響を与えたスタンフォード大学大学院への留学経験、マニラ洪水制御プロジェクトにおける初めての海外工事経験、ジャカルタ MRT プロジェクトにおける初めての所長経験などについて、分かりやすい英語での説明があった。

講師からは、海外で働くためには、宗教と歴史と異文化の理解、契約とリスクのマネジメント、コミュニケーションが特に重要であろうという経験談があった。

海外、特に発展途上国において、自分が携わったインフラ整備で、現地の人々の生活が大幅に改善されるのを実感できた喜び。異なる価値観を持つ様々な国の人々と相互理解を深め、多くの苦難を協力して乗り越えて、竣工までたどり着いた喜び。今回の出前講座では、シビルエンジニアとして海外で働くこのような喜びを学生たちと共有したいという講師の想いが伝えられ、国際プロジェクトに興味をいなく工学部3年生の受講生約80名は、実体験に基づく体験談に熱心に聞き入っていた。

土木学会国際センターでは、他の大学や高専などでも同様の出前講座を実施し、様々な場所で、土木技術者が海外で活躍する世界を伝えていく予定である。

【大迫一也(清水建設(株))と国際センター教育グループによる報告】



大迫氏による講演



熱心に聞き入る受講生たち

## 第4回 技術者ラウンジ“DOBOKU”

国際センター・教育グループは海外で活躍する技術者を講師に迎え、海外プロジェクトの経験について深く掘り下げ、プロジェクトで苦労したこと、課題、今後の展望、これから海外で活躍する若手へのメッセージなど、双方向のフリートークの機会を設けています。

第4回は、2019年12月23日に日本工営(株)ティハ氏を講師に迎え開催しました。15名の参加者と講師の間で「DOBOKUにおける人財のグローバル化」を議論しました。

まず、ティハ氏から、「国際技術者として生きて～海外留学生の経験から～」の講演がありました。1994年、奨学金を得て日本に留学、広島大学に進学、同大学院にて博士号(工学)を取得しています。2005年日本工営に入社、研究開発部門を経て、2012年海外部門に異動し現在に至ります。この間、コンサルタント技術者として「ミャンマー国 ティラワ地区港湾拡張事業準備調査」、「ベトナム国 ラックフェン国際港インフラ建設事業」に参画しています。また、土木学会、ミャンマー工学会等における学会活動を通じて、土木分野での国際交流に貢献しています。これらの実績により、土木学会国際貢献協力賞、ミャンマー工学会賞及びASEAN エンジニア賞を受けています。

参加者からは、①留学して土木を学ぼうとした理由、②日本の土木業界で長く働くモチベーション、③土木業界に改善してもらいたいこと等について質問がありました。

ティハ氏から、以下の通りの解答がありました。

①1990年後半のミャンマーは民主化運動が激しき増す中、大学は閉鎖と再開を繰り返し勉強できる環境になかったため留学を決意した。また、今後のミャンマーの発展には社会インフラ整備が重要と考え、分野は土木工学を選んだ。

②やりがいのある仕事に出会い続けていることが、15年間土木業界で働いている一番の理由である。

③国内業務では技術士を取得する必要がある。しかし、技術士試験は日本語による記述式のため、留学生が合格するのは困難である。英語で解答できるようにするなど改善してほしい。

ティハ氏の活躍は「土木技術者として、ミャンマーと日本の架け橋になりたい」というご本人の強い意志と努力の結果であることは言うまでもありません。一方、ティハ氏のような成功例は多くはないだろうとの懸念があります。今回のラウンジでは、海外留学生の特性を發揮して活躍できる場と環境を作る必要性を参加者間で共有、再認識しました。



高橋 秀 (国際センター教育グループ)



ティハ氏によるプレゼンテーション



参加者とのフリートーク

【記：国際センター 教育グループ 高橋 秀 (日本工営(株))】

## 世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第 15 回シンポジウム 「ベトナムでの鉄道橋梁リハビリテーションプロジェクト」

国際センター・プロジェクトグループと鉄建建設(株)による共催で、第 15 回シンポジウムが 2020 年 2 月 5 日、開催された。2014 年から始まった本シンポジウムは、国内の特に若手の技術者に対し、土木の海外進出の意義を伝え、興味を持ってもらうための場として毎回好評を博しており、今回も土木会館講堂に 100 名の聴講者が集まった。今回は、国土交通省鉄道局国際課の浅井力矢課長補佐による「鉄道分野における海外展開の状況」と題した講演の後、東南アジアを中心にインフラ整備事業を展開する鉄建建設(株)から 3 つの講演が行われた(写真 1)。



高須賀 伸生  
(鉄建建設(株))

### <プログラム>

- ・開会挨拶
- ・鉄道分野における海外展開の状況  
-----国土交通省 鉄道局国際課 課長補佐 浅井 力矢
- ・鉄建建設の海外プロジェクト  
-----鉄建建設(株) 常務執行役員 土木本部・建築本部 副本部長 中川 泰
- ・ベトナム南北統一鉄道橋梁架替え工事  
-----鉄建建設(株) 海外事業推進室 土木企画営業部長 鈴木 武智
- ・「日本と海外の生活の違い」～バタンバンの生活を中心に～  
-----鉄建建設(株) 海外事業推進室 バタンバン駐在 斎藤 めぐみ
- ・全体総括  
----- (公社) 土木学会 国際センター次長 樋口 嘉章
- ・閉会挨拶

国土交通省の浅井氏は、海外の鉄道分野の市場は年間 25 兆円規模で、2023 年くらいまではさらに増大するとの見込みを示し、わが国の鉄道インフラ技術がもつ安全性の高さとライフサイクルコストにおける優位性を強調した。

創業以来、鉄道建設を強みとして成長してきた鉄建建設(株)もインドネシアでの鉄道複線化・高架化や台湾での地下鉄工事など、海外で実績を重ねてきた。2010 年からは、ベトナムで国鉄鉄道のハノイーホーチミン間のうち、ダナンを中心に約 230 km にわたり点在する、ベトナム戦争時に破壊され応急復旧のまま使い続けられた橋梁の改修工事にあたった。工事を担当した鈴木氏は、線路閉鎖 4 時間のうちに旧橋撤去



写真 1 熱心に話を聞く聴講者

と新設までを行うという厳しい施工条件の下、本線の横に仮組した本設橋を、限られた機械設備で時間内に横取り架設するには、作業の正確性や時間の概念も含めた現地スタッフへの指導が必要だったと当時の苦労を振り返った。次に、事務職としてカンボジア・バタンバンに駐在する斎藤氏は、現地の食文化や交通事情を動画を交えて紹介した。また、鉄建建設(株)の海外土木事業を牽引してきた中川氏は、安全から技術、品質にいたるまで継続的な支援と育成を通じた国際貢献をしながら事業成長を図っていくと今後の展望を述べた。最後に、現在、海外でプロジェクトに携わっている鉄建社員と現地スタッフから寄せられたビデオメッセージ(<https://youtu.be/eOXKbZ9YonA>)を紹介し、斎藤氏の「オークン チュラウン (クメール語=カンボジアの公用語で、どうもありがとうございました)」の挨拶で講演会が締めくくられた。

講演会の後の意見交換会では、需要が高まる海外プロジェクトを支える技術者の育成方法や外国籍技術者の活用の重要性などについて活発な意見交換が交わされた。

【記：鉄建建設(株) 高須賀 伸生】



講演最後に披露された動画  
「Video Letter from  
TEKKEN Global Site」  
(再生時間 2分)

## 土木計画学研究委員会

「土木計画学研究委員会」は土木学会の学術研究グループ(調査研究部門)の一つとして1966年8月に設立されました。

私たちが暮らしているこの「環境」は、自然環境に様々に私たちの手で働きかけることで作り上げあげられています。すなわち、道路や鉄道、港や空港、上下水道、公園、ダムや堤防等の「インフラ」を整備していくことを通してはじめて、私たちが慣れ親しんだ都市や地域といった環境が作りあげられています。そして土木計画学とは、私たちの社会が衰退したり滅び去ったりすることなく、より望ましい形で繁栄していくためには、インフラの整備や管理、運用を通して私たちの暮らしの「環境」をどのように整えていくべきなのかを考える学問体系です。

言うまでも無く、インフラ整備や管理、運用を通して整えられる私たちの環境のあり方は、我々一人一人の暮らしのみならず、都市、地域、国家、さらには世界全体の経済活動、社会活動、文化活動といったあらゆる「活動」や「存続」に決定的に影響します。さらには自然環境にも大きな影響を与えます。そして実際の整備にあたっては、影響を受ける人や組織などの間の利害関係等を調整することも必要になります。こうしたこと全てを踏まえ、経済や社会、心理や民俗、政治や財政といったあらゆる社会科学的側面を総合的に見据えつつ、どのように都市や地域、国土といった様々な「環境」を整えていくべきなのかという「実践」を考える学問が土木計画学です。

土木計画学研究委員会は、こうした土木計画学研究の発展とその社会貢献の加速、さらにはその学



土木計画学研究委員会ホームページ  
(<https://jsce-ip.org/>)

問と実践を担う人材育成を企図して様々な活動を行っています。具体的には、年に二回の「土木計画学研究発表会」の開催、学術誌の編集、多岐にわたる研究テーマごとの公募型研究小委員会活動、シンポジウム・ワンディセミナーの開催、研究討論会(全国大会時)の開催、ホームページ・メーリングリストの作成・運営等を精力的に行っています。

【記：土木計画学研究委員会 幹事長 藤井 聡】

## お知らせ

### 【今後の予定】

・世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第16回シンポジウム(2020年6月下旬予定)  
テーマ：「我が国沿岸開発技術を駆使したインフラ輸出 ～ベトナム国ラックフェン港国際港建設事業～」  
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/169>

◆ IABSE-JSCE 4th Joint Conference, Advances in Bridge Engineering  
<http://www.iabse-bd.org/2020/>

◆ ASCE Lifelines Conference 2021  
\*コロナウイルスの影響を鑑み、アブストラクト受付期限が5月5日に延長になりました。  
<https://samueli.ucla.edu/lifelines2021>

◆【アブストラクト受付期限延長】  
第2回 圧入工学に関する国際会議 ICPE 2021  
[https://www.press-in.org/ja/page/icpe2021\\_download](https://www.press-in.org/ja/page/icpe2021_download)

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブ(JSCE ウェブサイト 英語版)」：「ジャカルタ漁港」プロジェクト掲載  
<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

◆ 第155回論説(2020年4月版) オピニオン  
(1) 情報化時代の道場と稽古を考える：  
<http://committees.jsce.or.jp/editorial/no155-1>  
(2) 地震発生時における建設コンサルタントのリスク管理と危機管理：  
<http://committees.jsce.or.jp/editorial/no155-2>

◆ 一般社団法人 海外建設インフラ協会：<http://o-ira.com/>

◆ jhappy - JICA 無償資金協力事業の今を知る -  
Facebook: <https://www.facebook.com/jhappy20161110/>  
Twitter: [https://twitter.com/jhappy\\_official](https://twitter.com/jhappy_official)

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト(日本語版)  
[http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac\\_dayori\\_2020](http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2020)

◆ 土木学会誌 2020年5月号 ※JSCE ウェブサイト(英語版)  
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>



「いつものまちが博物館になる」  
オンライン土木博物館  
<http://www.dobohaku.com/ja/>

土木図書館デジタルアーカイブス  
<http://www.jsce.or.jp/library/archives/>

## 配信申し込み

通信をご紹介いただければ幸いです。

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム  
・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>  
・英語版：<http://www.jsce-int.org/node/150>

## 英語版 Facebook

国際センターの英語版 Facebook です。直近の国際センターの活動について紹介しています。  
(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】 JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信について皆様のご意見やコメントをお待ちしております。